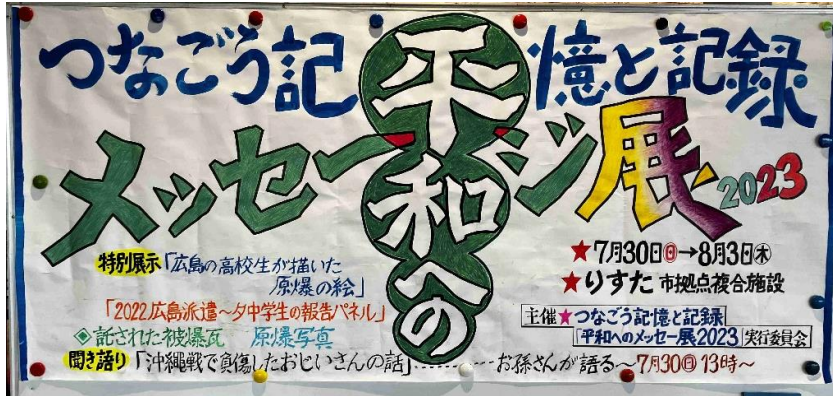


『平和へのメッセージ展』閉幕

「広島の高校生の絵」中心に



7月30日から8月3日まで、複合施設ですたで「つなごう記憶と記録・平和へのメッセージ展」が開催されました。期間中合わせて100名近い来場者となりました。今回は前年の待合交流スペースではなく、多目的室1・2を使った空間を最大限に活用しての実施。メインは「広島の高

証言者と高
校生が共同
し、証言者
の記憶に残
る光景を高
校生が絵に
描き、当時
の状況を伝
える取り組
みが続いて
います。

何度も打
ち合わせを
重ねながら
制作し、被
爆体験継承
の一つの形
として進め
ていて、運

証言者と高
校生が共同
し、証言者
の記憶に残
る光景を高
校生が絵に
描き、当時
の状況を伝
える取り組
みが続いて
います。



被爆体験証言者の記憶に残る光景を描いた高校生の絵

やすいパネルにして全
国へ貸し出していま
す。

中学生広島派遣事業

会場には昨年の中学
生広島派遣事業の報
告パネルも展示。昨年
参加した学生は当時
を振り返りながら観
覧していました。

昭和61年に「核兵器
廃絶平和宣言」を
行った夕張市は、平成
6年から「平和教育中
学生広島派遣」を実
施し、これまでに中学
生70名、引率教員30



川底に沈んでいる「被ばくした瓦」

平和資料館の見学、
子ども広場での折鶴
献納・平和公園碑めぐ
り・灯篭流しに参加し
ています。

沖縄戦の聞き語りも

30日13時から
「沖縄戦で負傷したお
じいさんの話」と題し
た聞き語り。

15名ほどの参加者
が耳を傾けました。
体験者の声、におい
や音、集団自決したガ
マと、全
員助かつ
たガマ(ア
メリカ文
化をよく
知る人が
いたので
投降でき
た)、大切
なのは相



且中止となりまし
たが、夕張と交流の
あった多くの方々の
ご寄付で平成20年
に再開しましたが、
その後、募金活動が
困難となり派遣事
業は危ぶまれました。

手の文化を知ること。
現在の基地と沖縄の
現状。日常会話のタブ
ーなど。
…昔話ではなく、全
てが今を作り、未来に
つながります。



入場者は市内外か
らの小中学生も多く、
じっくりと観覧してお
り、若い世代に着実に
伝わっている様子。
実行委員の皆さん、
お疲れさまでした。



リンデンコールミニコンサート開催



7月29日
リサの会場
で、リンデン
コール・ミニ
コンサート
が開催され
ました。
リンデンコ
ールには市
内外にソリ
ストの会員
が4名所属
していて、女
声コーラスグループの
参加も得、多彩なプ
ログラムとなりまし
た。

- ① 混声合唱 リンデ
ンコール
指揮：安藤政子
伴奏：大館 円
♪『命の歌』
- ♪『名前のない空
を見上げて』
- ② ソプラノ独唱
細川 光
♪『理想』
- ♪『アヴェマリア』
- ③ テノール独唱
古城 一樹
♪『オンブラマイフ』
- ♪『落葉松』
- ④ 女声合唱 コール
ポピー
♪『にじ』
- ♪『HEIWAの鐘』
- ⑤ 女声合唱 コール
リラ
♪『夏の思い出』
- ♪『忘れな草』ほか
- ⑥ サクソフォン独奏
松平和也
♪『愛の賛歌』
- ♪『マイウェイ』
- ⑦ テノール独唱
平田隆男
♪『フニクリフニクラ』
- ♪『この道』ほか
- ⑧ 皆さんと「一緒に
♪『七つの子』
- ♪『赤とんぼ』ほか
- ⑨ 混声合唱のための
童謡メドレー
♪『こいの日か』



櫻井あきの
ボカボカ日記
夕張市議会議員 櫻井あき
LINE

函館の一般社団法人「こく」佐々木 絵美さんの講演
《学校のトイレに無料ナプキンが必要？》を聞いてきまし
た！道内外の施設や学校のトイレへの生理用品設置に
尽力されています。

今の子どもの現状、生理用品が用意できず困って
いる背景には児童虐待やひとり親など、様々な家庭環
境が隠れていることを実体験を通してわかりやすく伝
えてくださいました。

商業施設からも依頼を受けて「夜回り活動」もしてい
るとか。スーツを着た指導員には返事をしない子でもポ
ツプでおしゃれな佐々木さんには心を許してくれるそ
う。今は「夏休みボックス」として生理用品、食品やお菓
子などを郵送して給食がなくて困っている家庭にもSNS
を駆使して支援を広げています。

色んな世の中の矛盾にも立ち向かっている佐々木さ
んにリスベクト！
会場には男性や学校の先生、保護者、様々な立場で
参加されていてみなさんでゆっくりと語り合えたのはと
ても貴重な時間でした。
生理の話は命の話、もっとみんなでしませんか？



学校のトイレ設置も生徒やボランティア部など
自主的にやりたい学生が活躍・補充していたり
トイレ掃除の際に補充の学校もあります。

トイレに置くことが安心感に。
トラブルもないそうです。

自宅の次に過ごす事の多い学校に設置
災害時の避難所として学校が使われる事がある
設置しておくと言えなが助かる



はたやま和也「かけある記」
元衆議院議員
はたやま 和也

熱き平和の声をあげよう
広島・長崎への原爆投下から78年を数えま
す。北海道でも例年以上の暑さが、投下された日
を思い起こさせます。

今年3月末で道内にいる被爆者は200名、平
均年齢は85・88歳になりました（北海道被爆
者協会調べ）。生き地獄を経験し、後遺症に今な
お苦しむ被爆者に残された時間は多くありませ
ん。日本政府による早期の補償、何より核兵器禁
止条約の署名・批准を強く求めたい。

道被爆者協会の会長だった故・越智晴子さん
は、救護所に向かう途中で「私も連れてって」と
三人の女の子に会ったそうです。しかし、衛生兵
から「助からないから置いていこう」と言われ、
仕方なしに従ったことを終生、悔い続けたとい
います。自分だけ生き延びられた罪悪感から被爆体
験を話せず、亡くなる前になって初めて語る方も
いると聞きました。

これほどまでに破滅的・非人道的な核兵器を、
抑止力として存在を認める岸田首相。加えて大軍
拡・大増税だなんて、被爆者の苦しみを何だと思
っているのでしょうか。

先週、別海町・矢日別での平和盆おどりが4年
ぶりにリアル開催されました。演習場のど真ん中
で、平和に生きる権利を訴え続けて58回目。平
和への熱い思いの交流や文化ステージの熱気、子
どもたちが太鼓をたたき踊る姿に、おおいに元氣
をもらいました。平和をつくっているのは、間違
いなく草の根の力です。

同じ過ちをくり返さないため、この夏は熱く平
和の声をあげていきましょう。